



かわはく No.7

CONTENTS

特別展点描「さいたまの龍」	2
川をめぐることば A. P. と T. P.	4
身近な水紀行 妙音沢	5
施設紹介 電子顕微鏡の紹介	6
トピックス かわせみ川原に飛来した白鳥	6
かわはく日誌	7
教育普及のお知らせ	8



さいたまの龍

はじめに

さいたま川の博物館では、今年度第3回目の特別展「龍神～雲を呼び嵐をおこす～」を開催します。

この特別展では、大陸で出現して、流行した龍が、弥生時代の日本に上陸したのちに、どのような変遷を経て、今に伝わる「水の神」として定着していったかに焦点をあてました。

さいたまの龍

さて、埼玉県内には、龍にまつわる伝説が、数多く分布しています。龍のすむ沼や淵、龍が退治された話、龍が女性に化けていた話などなど。しかし、伝説を集めただけでは、特別展は開催できません。また、ひとくちに龍と言っても、美術工芸品やラーメンどんぶりなど、あらゆるところで見つけることができます。そこで、「水」、「雨」をキーワードに、今でもその姿を見ることができる龍を調査することにしました。

さて、みなさんは、倶利伽羅龍（くりからりゅう）をごらんになったことがありますか。曲がりくねった胴体で剣に絡み、その剣をまさに呑み込もうとする威厳に満ちた龍を「倶利伽羅龍」と言います。県内のいくつかの例を紹介します。

飯能市富士浅間神社

境内にある「芙蓉（ふよう）の滝」の横にたっています。滝に打たれてこの龍を拝めば病いが直ると言われています。

川越市白髭神社

地元の方には「オタキサマ」と呼ばれています。眼下に湧水点のある崖上に立っています。この周辺は干害を受けやすく、戦前は、オタキサマを池に投げ込み、村中の人々が水をかけ、獅子舞がその池のまわりをまわるという雨乞いが頻繁に行われていたそうです。

川越市愛宕神社

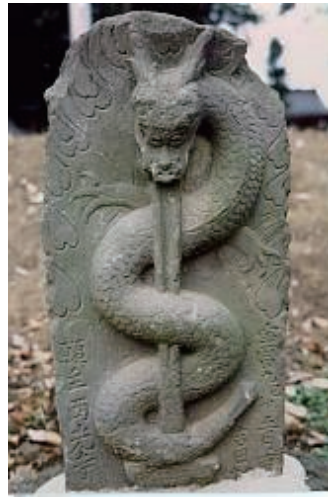
「水神様」と呼ばれ、「仙波の滝跡」の前に建っています。滝は昭和38年に涸れてしまったそうです。旧仙波河岸が近く、明治、大正時代の水運最盛期には、船乗り信仰されました。また、農家の人々は「雨の神」と呼び、滝の水を掛けて雨乞いをしたそうです。

東松山市不動沼

上野本地区に不動沼があり、そのほとりに、小さなお堂があります。その中に赤い鋭い眼でにらむ倶利加羅龍が納められています。不動沼はため池で、周辺の人々にとって、重要な農業用水の供給源です。なお、この倶利加羅不動尊は東松山市指定文化財です。



富士浅間神社



白髭神社



愛宕神社



不動沼

「くりから」の語源は梵語の「kulika」と考えられていて、本来は倶利加羅龍王です。すこし複雑ですが、この龍王は不動明王の化身ともされています。これらの倶利加羅龍はいずれも江戸時代に建てられたものと推定されています。当時、水の神として、広く普及したと考えられます。

龍の舞台幕

秩父郡小鹿野町にある株父大神社には、張ると必ず雨が降る龍の舞台幕が伝わっています。当社では明治時代末から株父大神社舞と呼ばれる神楽（小鹿野町指定無形民俗文化財）が奉奏されますが、かつては、その夜に芝居も行っていました。この芝居の時、社蔵の龍の幕を張ると必ず雨になるといわれたので、神社の奥にしまって、出さなくなりました。最後に幕を張った昭和22年も、やはりどしゃ降りになったそうです。



屋台彫刻の雨龍

比企郡玉川村、今宮神社の末社である八坂神社の例祭に八坂祭があります。この時にひかれる通称一ト市の屋台に彫られている龍の彫刻は、その名を「雨龍」と呼ばれ、祭りの初日はわずかでも雨が降ると言われています。しかし、雨が降らない年は不作になると伝えられています。また、日照りが続く時、この龍を屋台からはずして川に浸して降雨を祈願すると、不思議と雨が降ると伝えられ、かつてはしばしば雨乞いに使われました。



龍の軸

大里郡妻沼町にある長井神社の社家に伝わる龍の幕を拝殿に掛け、雨乞い祈願をすると、不思議と雨になったと伝えられています。この龍は天保9年（1838）に描かれたものです。

なお、当社の伝記には、平安時代末、近隣の龍海という池に棲んでいた大蛇を退治した話が、射抜いたやじりとともに伝わっています。

以上、さいたまの龍のいくつかをご紹介しましたが、県内には、他にも水や雨にかかわる伝承をもつ龍は、多数棲息しています。また、視野を日本中に広げれば、数え切れないほどの龍が、その鋭い睨みを利かせているのです。

(学芸第二課 学芸員 佐藤 康二)



A. P. と T. P.

- 標高の生みの親は荒川だった -

荒川にかかる橋などときおりA.P.〇〇mという表示を見ることがあります。これはその場所の高さを示す数値です。A.P.は Arakawa peil の略で、荒川工事基準面といいます。Peil はオランダ語で「水準線」あるいは「基準」などを意味します。明治時代の始め、デ・レーケらオランダ人技師が近代的な治水事業を指導したため、オランダ語が使われました。A.P.は東京都中央区新川にある霊岸島水位観測所の最低水位をもって定めています。最低水位を用いたのは工事に便利だからです。霊岸島水位観測所は隅田川河口付近にあり、明治時代には荒川の河口でした。A.P.は荒川のほか多摩川水系、中川水系で工事基準面として用いられています。

いっぽうT.P.は東京湾平均海面（東京湾中等潮位＝いわゆる海拔）を意味しています。T.P.は1873（明治6年）から1879（明治12年）の潮位記録を平均した数値A.P.+1. 1344mをT.P.±0.0mと定めたものです。

ところで標高の基準である水準原点はT.P.+24.4140mと測量法施行令第二条で定められています。水準原点は1891年に陸地測量部（現在、東京都千代田区永田町の憲政記念館前）に設置されました。設置場所は武蔵野台地の上なので、T.P.よりかなり大きな値になっています。設置当時はT.P.+24.500mが水準原点の高さでしたが、1923年（大正12年）の関東大地震で水準原点自体が変化したため、現在の数値になっています。東京湾の埋め立てなど都市化の進展で霊岸島付近が潮位の測定に適さなくなったため、現在では三浦半島油壺の国土地理院検潮場での測定値を東京湾平均海面として用いています。このように測量の歴史をたどると、日本の高さの基準制定の原点は荒川にあったこととなります。

ちなみにA. P. 同様の基準はほかにもあり、O.P.（大阪湾工事基準面T.P.-1.3000m、淀川水系）、Y.P.（江戸川工事基準面T.P.-0.8402m、利根川水系）などが用いられています。

文献

測量法施行令.

建設省河川砂防技術基準（案）同解説・調査編.

地球をはかる. 新版地学教育講座1. 東海大学出版会.

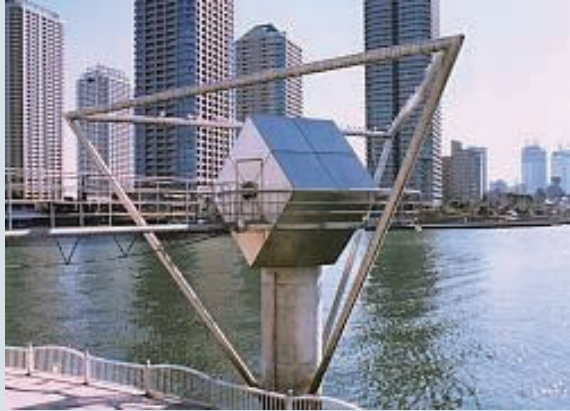


図1 壺岸島水位観測所

東京都中央区新川。墨田川と亀島川の合流地点にある。1994年5月に元の位置から36m下流に移設。現在も観測が行われている。地下鉄八丁堀駅から徒歩約10分。

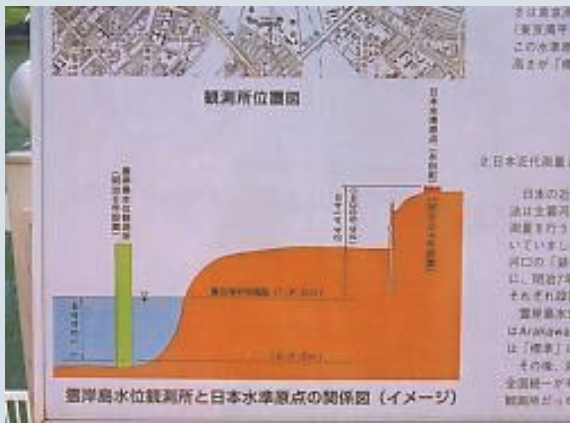


図2 水準原点との関係を示すパネル

壺岸島水位観測所の解説パネルの一部。そのほかにも近代測量の歴史などが解説されている。



図3 水準原点標庫

千代田区永田町の憲政記念館内にある。この中に水準原点が設置されている。建物は石造で明治期の数少ない近代洋風建築として東京都指定有形文化財となっている（平成8年指定）。地下鉄桜田門駅から徒歩5分。

(学芸第一課 学芸員 楡井 尊)



みょうおんざわ
新座市 妙音沢

21世紀に継承したい身近な自然として、私があげたいのは武蔵野台地のはげ（段丘崖）である。季節の移ろいを敏感に感じ取って四季を奏でる斜面林と、命の息吹を感じさせる湧水。木漏れ日さす頃の魅力捨てがたく、12月4日、小春日和に誘われて妙音沢を訪ねた。妙音沢は、黒目川沿いでは最も水量が豊富であるという。

*黒目川は、東久留米市の自莢（さいかち）窪（現小平霊園）と呼ばれる雑木林の中に残された窪地から発し、新座市、朝霞市を通過して新河岸川に注ぐ全長14.48kmの一級河川である。

事前に情報収集のため新座市教委の斯波（しば）治さんに電話をすると、市で整備計画があることをうれしそうに話してくれた。更に、車での行き方を教えてくれるので、「歩いて行くんですけど…」。「えっ、ずいぶんありますよ…」 後日、リーフレット類を送ってくれた。

その中の「新座文化財マップ」と「文化財散策ガイド3黒目の里をあるく」をたよりに、東武東上線朝霞台駅から黒目川に沿って歩いていった。その距離、およそ5km。東洋大学を南に見る土堤を歩いてゆくと、土曜日のせいかジョギングやウォーキングをする人たちが結構多い。流域には高層マンションが林立しており、都市河川化した黒目川とはいえ開放感を川に求める人は少なくないとみえる。水は見た目は澄んでいて、黒目川がきれいになったという何人かの言葉を思い出した。川面にはカモの他にカモメが群れ、川が海につながっていることを実感。



新座市に入る頃には土堤はなくなり、カモメも姿を消す。コンクリートや綱矢板の護岸が続いて疲れるが、所々の蛇籠による護岸箇所には必ずカモがいて、やや元気を取り戻す。国道254号の喧噪を過ぎてしばらく行くと、右岸側に段丘崖が迫ってきて斜面林が迎えてくれる。関東地方における旧石器研究の黎明、市場坂遺跡を仰ぎながら立派な橋を過ぎると、黒目川は大きく折れ、川にどっと水が流れ落ちている場所がある。そこが妙音沢であった。



湧水は、小尾根を挟んで大きく2箇所に分かれており、下流側は川に落ちる前が池になっている。近づくといきなり数羽のカモが、水音をあげて飛び立った。上流側はより谷が深く、崖下の数箇所からの湧水が一つの流れとなり、水草や落葉をさらっている。思わず、「ほー」と嘆声が出るほど水量は豊富である。リーフレットを見ると、「その昔、天から降りてきた弁財天が、村人に琵琶の秘曲を授けた」「弁財天の奏でる調べは片山の里に響きわたった」との伝説が記されている。むべなるかな。

帰途、黒目川下流沿いにある朝霞市立博物館に立ち寄った。水車を利用した伸鋼業や、新河岸川の舟運が目玉の博物館である。学芸員の野沢均さんが、「館の敷地にも湧水があるんです」と、うれしそうに言って案内してくれた。水量は少ないが沢ガニもいるという。展示フロアの4面マルチビデオコーナーには、黒目川・越戸（こえど）川沿いの湧水をテーマにしたものがある。私もうれしくなった。

(副館長兼学芸部長 柿沼幹夫)

電子顕微鏡の紹介

県立の施設に初めて設置された電子顕微鏡（日本電子製5310LV型）です。低真空と高真空で利用でき、パロイド写真で撮影したり、コンピュータに画像を取り込むことも可能です。もちろん館内LANを經由してワークショップで画像を見ることもできます。立体感のある像も電子顕微鏡の特徴です。ふだん見ることのない数万倍の世界は、とてもきれいで不思議な感じがします。今回掲載した写真は、比企丘陵の第三紀の地層から取り出した珪藻（図1）と放散虫（図2）です。珪藻は、淡水に棲むものと海水に棲むものがあり、写真は海水にすむタイプです。目に見えない化石を調べることで、過去の環境や年代を推定することができます。

最近では、分野を越えて電子顕微鏡を利用し、研究・教育がなされています。また当館の職員以外にも利用の門戸を広く開いて有効に利用して行きたいと思います。



図1 珪藻

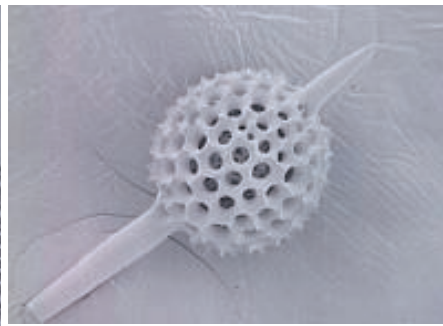


図2 放散虫



図3 電子顕微鏡を操作しているところ
電顕操作・撮影 松岡喜久次氏（豊岡高校）

（学芸第一課 主査 久保田 郁夫）

トピックス かわせみ川原に飛来した白鳥

平成10-11年の冬以来、かわはく近くの通称「かわせみ川原」に白鳥十数羽が飛来しています。水面に確認できたのは、コハクチョウ、カルガモ、オナガモ、カワウ、カイツブリです。ここは、川幅も広く、流れがゆるやかで生活に適しているようです。頭を水に入れ、逆立ちになった姿も見られ、水草を食べていると思われる。

今シーズンで2回目の越冬です。となりの川本町では昭和57年に11羽が最初に飛来し、最近では百数十羽が集まる白鳥の飛来地（最寄り駅 秩父鉄道武川駅）として有名です。そちらと、かわせみ川原が近いこともあり、最初は迷い込み、いついたものと思われる。

世界大百科事典によると「毎年、全国で1万数千羽が越冬する。2,3月には本州の渡来地では、渡去が始まり、4月には北海道東部の湖沼に集結し、繁殖地のシベリアへ向かう。冬季はおもに植物食（平凡社）」ということです。

白鳥は、リバーホールの廻り廊下（2階）から望遠鏡で生態を観察することができます。かわはくに来る楽しみがまた増えました。

（学芸第一課 主査 久保田 郁夫）





1 川辺の交流イベント（11月14日県民の日）

開館以来3回目の「川辺の交流イベント」を迎えました。委託業者に加え職員もイベントに参加し、昨年よりも盛りだくさんの内容となりました。写真は、しゃぼん玉のコーナーです。

（参加者7,413人：入館者数を含む）



2 第2回特別展 10月23日～11月28日

「日本人の他界観を探る～三途の川～」開催前からの問い合わせや、NHKなどマスコミなどにも採り上げられました。会期中中に図録を完売するなど大好評でした。

講演会11月7日「民話に見る他界の風景」（111人）

講師松谷みよ子氏（作家）

淡々とした話ぶりに魅了されました。会場は満員でした。

ワークショップ11月13日「探検！三途の川」（17人）

天候に恵まれ気持ちよく三途の川を歩くことができました。

特別展の図録はコバンで取り扱っています

3 土曜おもしろ博物館

■11月13日 水のもようを記録しよう（42人）

■12月11日 大空にたこを泳がせよう（38人）

■2月12日 川砂・海砂ミクロの発見（31人）

4 カワシロウ講座（後期）「今川が危ない」

3回連続で川環境をめぐる今日的话题をとりあげました。

■2月19日第一回「酸性雨とダイオキシン」（27人）

講師：星野弘志氏（埼玉県ダイオキシン対策室専門調査員）

埼玉県の現状と解決の道筋が見えました。

5 シネマかわはく（映画会）

■11月21日「トム・ソーヤの冒険」／「絵の中のぼくの村」（112人）

●12月12日「白いオオカミ」（41人）

・新着フィルムの臨時上映会を実施しました。

■12月19日「トム・ソーヤの冒険」／「あらかわ」（57人）

■1月16日「那須疎水物語」／「統・あらかわ」（47人）

■2月20日「せんぼんまつばら」（23人）

6 ガリバーウォーク

ボランティア講座修了者のガイドもあり、ますます荒川大模型173の活用が増えてきました。（242人）



【熱心に解説するボランティア】

7 子ども放送局（全国子どもフラン）

文部省の衛星通信ネットワークを利用した放送です。県内で17ヶ所に受信装置が設置されています。最新情報は、<http://kodomo.nyc.go.jp>で見ることができます。

10月	11月	12月	1月
52人	29人	16人	67人

8 スタンプラリー

スタンプラリー達成者には、ウォータージェットカッターで作った恐竜をさし上げています。1月末現在113名の方が手に入れることができました。

9 ホームページアクセス回数

10月	11月	12月	1月
1339件	908件	688件	818件

お詫び かわはく第6号で誤りがありました。つぎのように訂正してお詫びいたします。

（誤）－（正）

7頁 2 第2回特別展 → 2 第1回特別展

7頁 ■10月16日「それいけ～ → ■10月17日「それいけ～

開館以来の入館者数 755,643人（1月末現在）